

市民自治こがねい広場 散歩だより No.88



2014.10.26 発行

編集・発行 市民自治こがねい 〒184-0012 小金井市中町3-10-10-103 Tel/Fax. 042-316-1511

小金井から平和の声を！

きな臭さが漂い始めています。特定秘密保護法、集団的自衛権行使容認の閣議決定・・・市民の異議申し立ての声を無視し、前のめりで強行されています。来春の国会に向けて、自衛隊法・周辺事態法等の「改正」や集団自衛事態法の制定など20本近い関連法の準備が進められ、政府の戦争政策への「協力義務」として自治体や国民の責務があげられようとしています。

「地方自治」、「市民自治」とこれらの法案は相容れるものではありません。市民として地域から声を上げることが今ほど大事な時はありません。私たちが住む小金井から。



9/16

地域から平和の声を あげていくために 議会ができること

7党派13人の議員が超党派で開催した「憲法解釈の変更による集団的自衛権行使の容認反対フォーラム～勝手に変えていいんかい？憲法解釈の変更の問題点と今後のゆくえ～」は超満員となり、好評を博した。

3月議会に続き6月議会で「憲法解釈の変更による集団的自衛権行使の容認に再度反対する意見書」を採択したことがきっかけだった。

国立市議会が作った、賛成議員全員の顔写真入りの意見書可決チラシになって小金井でも作成、超党派で駅頭宣伝。そして、各議員が意見表明するフォーラムを開くことになった。最初は渋っていた議員たちも「戦争には反対なんですよ？」と聞くと「それはそうだ」ということに。個別自衛権は必要、集団的自衛権も必要だが憲法解釈変更は困るなど、考えは少しずつ異なるけれど、いっしょにできることもある。国がとんでもない方向に進む時、それは違う、という声を地方議会があげることがこれからもっと重要になる。

(片山かおる/市議会議員)

「子どもたちに平和な未来を」 ～落合恵子さんとともに～に参加して

9/20

落合恵子さんがなぜ、いのちと平和と人権を守る活動に尽力しているのか、そのきっかけの話が印象に残った。「私生児」と呼ばれ、差別される側に生まれたことや、戦後まもない幼少期に、「未亡人」と呼ばれる女性たちのしごとと生活を間近にみたことなど。それらは戦争さえなければ起こらなかったのだ。

続くリレートーク。私たち学生は、学費の負担・奨学金返済の不安やアルバイトの過酷さなど身近な課題で、自分たち当事者が動くことが大切になる。母親たちは、放射能の不安や戦争できる国づくりへの危機感から、子どもたちのいのちを守ろうという思いで地域での運動をつくってきた。学校教育の中でも、平和を考える題材を生徒自身が大切にしている様子が語られた。9条の平和理念を世界にと、一人の母親のアイデアから広がったノーベル賞の運動も小さな力が集まってできたものだ。

自分が相手の立場だったらと想像し、その思いに寄り添うことが、いのちを大切にし、差別を、戦争を、しない・させない社会につながる。そして、ひとりで9条の署名を集め続けた箕輪喜作さんのように、私にこそできることがあるはずだと誰もが確信した夜だった。(加藤友志 東京学芸大学 学部生/緑町)

11/9

平和のために 今こそ声を！ 小金井パレード

11月9日(日)午後2時～

集合場所:中町3丁目暫定広場

(ジャンノメ跡地)

<主催> 平和のために今こそ声を！
小金井パレード実行委員会

迷走する「庁舎」、「駅前再開発」、「公共施設再配置」

「武蔵小金井駅南口第2地区の再開発」のあり方、そして市税投入についての住民投票を求める直接請求（異議申し立て）が行われ、市の説明責任が問われています。それに加えて、またまた、突然に提案されたのが、「新庁舎建設15年間凍結と第2庁舎買い取り」です。これまた市民無視、ずさん極まりないものでした。ここにきての稲葉市長の迷走ぶりは目に余るものがあります。

庁舎をはじめ福祉会館など市の主要な公共施設は、耐震補強もされず、老朽化し、放置されています。今後、建て替えるのか、補強するのか、場所を移すのかについても計画は揺れ続けています。公共施設のあり方や再配置は、高額な予算を必要とすることもあり、長期の計画性、総合的まちづくりの視点、市民生活の豊かさにつながる事が大事です。そのかじ取りを稲葉市長に期待するのは無理な気がします。

小金井市が保有する施設の半分以上（65.6%）が築30年を超える。
すでに建て替え・大規模改修の大波が押し寄せてきている。

●市役所本庁舎 築49年

市長室、企画財政部など市の中枢管理部門、市議会など。迷走する市庁舎問題のため、耐震診断も未実施。耐震に疑問があるこの本庁舎が災害時の市災害対策本部の設置場所とされている。これってブラックユーモア？

そして、本庁舎の横にある木造の西庁舎、なんと築56年。こちらも耐震安全性は確保されていない。

●図書館本館 築39年

2012年に耐震診断し、耐震補強の必要はないとされた。しかし、老朽化対策を行い使い続けるのか、それとも建て替えるのか、今後についての市としての本格的検討は行われていない。図書館のニーズの増大、今後のあり方によっては、広いスペースが必要となり、新しい場所での建設が求められることになる。

●福祉会館 築47年

耐震安全性が確保されていない。
今後についての庁内での検討は二転三転。
建て替え・場所未定 ⇒ 建て替えてなく耐震補強 ⇒ 新たな場所（本町暫定）での建設。それまでの耐震対策は？

建て替え・改修のコスト試算：
今後40年間 年平均24.3億円
（「施設白書」より）

悪循環。本来施設は、きちんと維持管理をし、早めに改修、補強することで、トータル予算を抑え、施設の寿命も長くなる。
小金井市の場合、慢性的な財政危機のため、維持管理は疎かになり、改修・耐震も先送り。その結果、老朽化はさらに進み、より財政負担が増え、財政危機がさらに深刻になります。

どうなる？武蔵小金井の駅前再開発

住民投票を求める直接請求、5454名の署名で成立－臨時議会で審議始まる

「小金井市の武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業に係る都市計画案及び市費の支出への賛否を問う住民投票条例」の実施を求める直接請求は、5454の署名を集めることで成立しました。

10月6日、市長はこの条例案に対し反対意見を付して議会へ提案を行ないました。10月14日に請求代表者4人からの意見陳述が行われ、審議に入りましたが、資料が整わず、1人目の質疑途中でストップ。会期は延長され、10月29日に審議されます。

今回の住民投票請求は市の補助金支出に対する異議申し立てですが、すでにディベロッパーが多額の受注金額を示していることから、補助金投入の必要はないとも考えられます。

請求代表者の陳述で共通していると思ったのは、市民への説明が少ないことへの怒り

です。市民説明会が打ち切れ、次の説明会が開られないことに対し、あまりにもひどいと感じたことがひしひしと伝わってきます。市民への説明について、この間、様々な場で問題になっていますが、市民参加条例の解釈以外にも、まちづくり条例の中での市民参加の規定も活かされていないのではないのでしょうか。

再開発で高層ビルを建てることは町の景観を大きく崩し、気候変動の一因となります。大規模開発はエネルギーも大きく消費します。できるだけ地面に近い低層で、緑豊かな、できる限り環境影響の低い、リノベーション中心の整備にすることが、今の、そしてこれからの時代に沿った持続可能なまちづくりです。

公共施設再配置も含め、まちの在り方全体を、市民の目線を入れながら見直すことが必要です。
(片山かおる／市議会議員)

稲葉市長迷走！ 突然、ずさん、市民無視 新庁舎建設15年凍結、第2庁舎買い取りを提案、そして撤回

“こと”は突然起きました。

稲葉市長は9月12日の会派代表者会議で、「新庁舎建設を15年間凍結し、市役所第2庁舎（小金井大久保ビル）の取得のための補正予算案を提出する」と突然表明したのです。寝耳に水、市民にも議会にも事前説明が一切ないまま約1週間で議決するという市民参加条例を完全に無視した暴挙でした。市民は急遽「市庁舎問題市民連絡会」を立ち上げ、集会、ピラ配り、市長と市議会へ請願・要望書を送付するなどの抗議行動をおこないました。

「第2庁舎を買い取ることで賃借を続けるより年1億円以上（15年で約18億円）削減でき、新庁舎のための積立が可能になる」という市長の主張は、固定資産税減収・本庁舎耐震補強・第2庁舎大規模改修工事費などを含んでいないことが議会で指摘され、取得にメリットのないことが露呈し、破綻しました。そして、9月30日、異例ともいえ



る議長の進言を受け、市長は「新庁舎建設事業の凍結及び第2庁舎の取得に係る提案並びに関連する補正予算」の撤回を表明したのです。しかし新聞では、現段階での撤回であり、今後再提案される可能性も大きいとの報道もされています。

市は市民参加で策定された「新庁舎建設基本構想・計画」を遵守し、蛇の目工場跡地での新庁舎建設を実現し、約30年にわたって続いていた庁舎問題を一刻も早く解決するべきです。しかし、新庁舎建設は市の財政問題とも大きく関わることであるから、新庁舎と老朽化した市の施設との統合や駅前再開発や道路計画のムダの検証など、総合的に市民参加で十分な検討していくことが求められます。
(水由／前原町)



僕に新しい視点をくれた船の旅

今年の3/13～6/24にかけて、僕はピースボートに乗り世界一周しました。大学卒業後、約4年会社勤めをしていましたが、その会社で働き続けた場合の将来に違和感があり、今年の3月に退職、そしてせっかくなら世界を一度に見てみようと思い、ピースボートに乗船しました。計104日間の船旅でしたが、終わってみればあっという間だったような結構長かったような、不思議な時間を過ごしていたように思います。

船内には様々な人々がいました。船旅を通して被ばく証言を行うヒバクシャの方々がいったり、国の支援を受け音楽を学ぶベネズエラの若き演奏家たちや、イスラエル・パレスチナ双方の若者が乗船してきたり。

また船内では今までよく知らなかったイスラエル・パレスチナ問題について、なぜそもそもユダヤ人は差別されていたのかということから、現在に至るまでの問題を学ぶことができました。それを学びながらパレスチナ難民キャンプを訪れたことで、一歩踏み込んで現地の状況を感じられたと思います。他にもここには書ききれないたくさんの方々のことを経験しましたが、なんと報告の場を設けて頂きましたので世界一周を通して体験したこと・感じたことを拙いながらも紹介させていただけたらと思います。(岡田哲/緑町)

平和ネット ただいま「憲法カフェ」開店中

2001年9月11日、何の前ぶれもなくアメリカ国民が無差別に殺され、憎悪と不寛容と報復の連鎖に火がつかしました。「じっとしていられない!!」説明しがたい不安と焦燥感にかられ、ピースメッセージを携えて街頭に立った市民が、翌年小金井平和ネットを始め、13年目をむかえています。

市政の問題や政府政策の腑に落ちない物事に声をあげ続けているうちに、2011年3月11日の大震災と福島原発事故!! 言葉を失い立ち尽くす国民の前には、嘘にまみれた政府や東電の無責任な発言が塵芥のように飛散する。飛散物の整腸効果で肥大化した現首相には、汚染水もれも福島の人達の困難も見えない!! アンダーコントロール!! と言いはなち、経済怪獣と化し国をへめぐり、憲法改悪の道をまっしぐら!!

「こりゃあ、憲法の制定主体になるべく努力するしかない!!」ということで、4月から毎月最終日曜午後「憲法カフェ」を開店中です。詳細の告知はホームページ上で!! 乞御参加。http://koganeiheiwanet.jimdo.com

(安藤能子/前原町在住)



**「市民自治こがねい」は
わたしたち市民の力で小金井市を変えたい!
市民の想いや考えを
福祉やまちづくりに生かしたい!
人権が尊重され、自治が息づく
小金井市にしたい!**

そんな考えの市民が集まり
片山かおるさんを市議会に送り出し
小金井のさまざまな問題を話し合っています。

どなたでも気軽にご参加ください。

※詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.sijiko.com/>

★会員になってください★
会費 1口=3000円/年(できれば2口以上)
・賛助会費 1口=1万円/年
・ニュースカンパ 1口=1000円/年
・郵便振替 00130-6-352041

編集後記 今号は当初、全体を「平和特集」にすることを考えていました。ところが、突然の「第2庁舎買い取り問題」。急遽2～3ページを組み替えました。11月9日の平和パレードに間に合わせるということで、短期間での編集となりました。執筆者のみなさん、ご協力ありがとうございます。(J)

会社卒業して世界一周してきました!

～ピースボート104日間の旅で何を見て、
何を感じたのか?～

このコラムに寄稿してくれた岡田哲さんを囲んで、船中での交流、寄港地での話などを聞きます。お気軽においでください。



11月8日(土)午後7時～

市民交流スペース カエルハウスにて

参加費: 500円(お茶菓子つき)

主催: 市民自治こがねい

連絡先: 042-316-1511